

経済学部経済学科通信教育課程

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部通信教育課程は、社会人だけでなく、身体障がい者、精神障がい者、精神疾患を抱える学生など多様な学生のニーズに応えることを要請される。その要請に応え続けることは容易なことではないと思われるが、経済学部通信教育課程では、メディアスクーリングの拡充や、学生アンケートに基づくカリキュラムの検討など、着実な努力が重ねられており、高い評価に値する。

経済学は、数学的な素養と抽象的な思考を、学ぼうとする者に要求する学問であり、学生のニーズに応えるには教える側の一層の努力が、特に通信教育では要求されるだろうことは想像に難くない。経済学部通信教育課程では、Web 学習相談制度やステップ型の学習ガイダンスだけでなく、スタディガイドの作成・配布を実施し、「学習質疑」制度を利用した学生の質問に回答する体制を整えている。通学課程とはやや質の異なる教育上の要請が存在することは想像に難しくなく、学務面でのハードルも高いと推察されるが、経済学部通信教育課程を円滑に運営するための長期的なビジョンに基づき、検討が重ねられており、高く評価するとともに、今後のさらなる発展を期待したいと考える。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

通信教育課程において身体障がい者、精神障がい者、精神疾患が重い学生等も多く在籍している。こういった学生への学生支援について、学生相談・支援室等の学内各所との連携をはかり、通信教育部として対応している。

カリキュラムの体系化等については、2013年度からカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の内容とする一方、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、メディアスクーリングの拡充なども行い、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置する努力をしている。

例えば、学生アンケートで要望の多かったメディアスクーリングの充実に向けて、新規開講科目を増やしており、2021年度には「経済政策論 A/B」と「日本経済論 A/B」が開講される予定である。

特色あるカリキュラムの構築については、通信教育部全体や本学学務課、通信教育協会等と連携をはかりつつ、引き続き、密に連絡を取りながら努力する。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部経済学科通信教育課程では、社会人だけではなく身体障がい者、精神障がい者、精神疾患を抱える方など多様な学生が学んでおり、社会的にも重要なニーズに対応している。そうした学生たちに対応するため、学生相談室や学生支援室等との連携をはかりながら学生支援を行っている。

カリキュラムにおいても、2013年度からのカリキュラム改革を充実させることで通学課程と同等の内容を提供しつつ、学生アンケートからの要望に応じてメディアスクーリングの更なる拡充を目指している。具体的には、2021年度の「経済政策論 A/B」と「日本経済論 A/B」科目の新規開講であり、改革を着実に進めており評価できる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開講し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

通信教育課程は、通信学習、スクーリング、メディアスクーリングといった様々な形態で教育を提供している。学生は自分に適した学習形態を選択できることが通信教育課程の特徴の一つである。特にスクーリングにおいては、昼間6日間の夏・冬期スクーリング、夜間14週の春期・秋期スクーリング、3日間の集中授業

である週末スクーリング、地方スクーリング、GWスクーリング、更にインターネットを利用したメディアスクーリングを開講しており、その形態は多様である。そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増やす努力をしており、通信教育課程全体(他学科公開科目を含む)として85科目(2020年度)を設置している。これらのメディアスクーリングにおいては、リニューアル(撮り直し)も一部で実施され、学生のニーズに対応している。これら多様な開

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| | | |
|---|---|--|
| <p>講形態、多様なスクーリングは、社会人、障がい者等を含む様々な背景を持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットとなっている。</p> | | |
| <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> | | |
| <p>特になし</p> | | |
| <p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程表 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html ・マップ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf ・ツリー https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf ・スクーリング開講科目一覧 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/system/schooling/media-subject.html | | |
| ① 学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。 | S | <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B |
| <p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>2013年度からカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の内容とすると同時に、経済学部経済学科として修得が求められる基本科目を厳選したカリキュラムとした。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。これにより、日本の通信教育課程において、もっとも幅広い経済学の知識の習得、教育を実現した学科の1つとなっている。</p> | | |
| <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> | | |
| <p>特になし</p> | | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程表 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html | | |
| <p>1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p> | | |
| ①学生の履修指導を適切に行っていますか。 | S | <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B |
| <p>【履修指導の体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web 学習相談制度 ・ステップ型の学習ガイダンス（1ステップ:職員による制度説明・2ステップ:卒業生による経験談他・3ステップ:教員による学習指導他） <p>なお、COVID-19の感染拡大で対面の学習ガイダンス等ができないケースが発生した場合の対応も適切に行っている。</p> | | |
| <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> | | |
| <p>特になし</p> | | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習ガイダンス https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/learn-support/guidance/ ・学習ガイダンスの動画 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/guidance/ | | |
| ②学生の学習指導を適切に行っていますか。 | S | <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B |
| <p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>通信学習において、市販本を教科書として利用している科目のうち、一部の科目においてスタディガイド（学習指導書）を作成・配布し、学習の手助けとしている。また、通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。</p> <p>スクーリング時においては、オフィスアワーを設置している。夏期・冬期スクーリングにおいて「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となる場の提供も行っている。</p> <p>この他、前述のWeb 学習相談制度は通信教育部卒業生を担当者とし、履修のみならず、学習相談等にも対応している。</p> | | |
| <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> | | |
| <p>特になし</p> | | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

| | |
|---|---|
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタディガイドサンプル ・学習のしおり抜粋 | |
| <p>③教育課程では、通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19 への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p> | |
| <p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>感染者数が急増する状況において、レポートの不正行為等によって学生との対面が必要になった場合、リアル（対面）での面談は実施せず、Zoom 等を利用して対応する配慮を行っている。</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p> | |
| ①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>【確認体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法と単位認定の内容の明記および遂行 ・通信学習シラバス・設題総覧「設題解答にあたっての解説・注意等」 ・シラバス「成績評価基準」 ・各期間と各都市のスクーリング シラバス「成績評価基準」, 「講義内容」「予習範囲」等単位認定への道筋を記載 | |
| <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス記載のシラバス | |
| <p>1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。</p> | |
| ①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。 | <input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| <p>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級判定は卒業判定と併せて教授会審議事項 ・成績分布/レポート数/単位修得試験者数/スクーリング受講者数等は学務委員会を通じて教授会に報告 | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p> | |
| ②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>すべての科目について、どのディプロマ・ポリシーに該当するのかを網羅した。それをもとに、各学科のカリキュラムツリーおよびカリキュラムマップを作成した。これにより学習成果を測定するための基礎資料が完成した。またカリキュラムツリー・カリキュラムマップをHPに公開している。</p> | |
| <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |
| <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マップ <p>https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-map.pdf</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツリー <p>https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/economics/subject/curriculum-tree.pdf</p> | |
| ③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。 | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。</p> <p>通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験（筆記試験）によって一連の学習の最終的な到達点を測定している。スクーリングでは授業の最終日に実施する最終試験（筆記試験）でその成果を測っている。また、メディアスクーリングでは中間レポートを課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。</p> | |
| <p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> | |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|---|---------|
| <p>・多様な背景を持った在學生が多いのが通信教育課程の特徴であるが、在學生のニーズを正確に把握するために学生アンケートの集計結果を活用している。これは受講形式としてメディアスクーリングの拡充を目指すことなどの方針決定に寄与しており、教育効果を高めるための工夫かつ長所である。</p> <p>・成績評価基準の変更とGPA制度の導入により、公平で信頼性のある評価を実施する努力もしている。</p> | |

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

| 内容 | 点検・評価項目 |
|--|---------|
| <p>未解決の問題としては、専任教員不在問題がある。この問題については、大学通信教育設置基準の附則にあるとおり、「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編制、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる。」に従い、他大学と歩調を合わせながら対応する必要がある。</p> | |

【この基準の大学評価】

経済学部通信教育課程の特徴として、通信教育、多様な形態で展開しているスクーリング、そしてメディアスクーリングの提供を通して、様々なニーズをかかえる学生たちが主体的に学習形態を選択できることがあげられる。前年度に引き続き、メディアスクーリング開講科目を拡充し、通信教育課程全体として 85 科目を設置していることや、リニューアル（撮り直し）によって授業の質を維持していく改善は、高く評価できる。これらは 2013 年度からのカリキュラム改革に位置しているが、結果、日本の通信教育課程において最も幅広い経済学の知識の習得と教育を実現した学科の一つとなっている。

学生に対する学びの支援についても、Web 学習相談制度やステップ型学習ガイダンスの実施、スタディガイド（学習指導書）の作成・配布など、学生のニーズに応えていくための工夫がみられる。例えば、ステップ型学習ガイダンスでは、ステップ1が職員による制度説明、ステップ2が卒業生による経験談、ステップ3が教員による学習指導と、多層的支援が準備されている。さらに「学習質疑」制度やスクーリング時のオフィスアワーによって直接に教員の指導を受けることができるとともに、スクーリング時の「通教生のつどい」を実施することで、教員・学生間の情報交換の場も提供している。

これらの取り組みには学生へのアンケートの活用があり、教育効果の向上のためにも役立てている。今後も多様な背景をもつ学生に寄り添って、学びを深めていただきたい。

2 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

| |
|---|
| 2.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。 |
| ①その他、通信教育課程として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。 |
| ※取り組みの概要を記入 |
| 1.2③でも記載したとおり、感染者数が急増する状況において、レポートの不正行為等によって学生との対面が必要になった場合、リアル（対面）での面談は実施せず、Zoom 等を利用して対応する配慮を行っている。 |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【根拠資料】

特になし

【この基準の大学評価】

経済学部通信教育課程では、日頃から授業の配信や学生相談に Web を用いて行っており、コロナ禍においても、そのノウハウを活用できたと思われる。しかし、レポートの不正行為などで学生との対面が必要になった場合、対面での面談は実施せずに Zoom 等を利用して対応する配慮を行っていた。感染拡大の防止に寄与している点では評価できる。

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
|------|-------|---|
| 1 | 中期目標 | 生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。 |
| | 年度目標 | 過年度の成績分布データや学生アンケートを元に学生のニーズをとらえ、世代に関わらないカリキュラムの充実を目指す。 |
| | 達成指標 | 学務委員会資料の教授会等へのフィードバック（通教主任による報告や教授会での承認等）。 |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 |
| 自己評価 | | A |
| 理由 | | アンケート調査の結果は教授会の回覧資料として経済学部の全教員が閲覧している。 |
| | 改善策 | コロナ禍のなかメディアスクーリング等に対する教員の関心も高まっており、通教学務委員のほか、経済学部の教員全体が通信教育部の現状や改善に関心を持つような環境づくりが重要である。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 2 | 中期目標 | カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。 |
| | 年度目標 | カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを確認し、必要に応じて修正等を行う。 |
| | 達成指標 | 学部専任教員（特に通教担当教員）への説明とフィードバックを反映し、必要に応じて改善する。 |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 |
| 自己評価 | | S |
| 理由 | | カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通教学務委員と教授会執行部が中心となり、作成・点検した。 |
| | 改善策 | 引き続き、定期的カリキュラムの見直しを行うとともに、カリキュラムツリー&マップの更新が必要である。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 3 | 中期目標 | 検証に基づく更なるスクーリングの充実。 |
| | 年度目標 | 学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の充実を目指す。メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスも検証する。 |
| | 達成指標 | メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置を行う。 |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 |
| 自己評価 | | S |
| 理由 | | 学生アンケートで要望の多かったメディアスクーリングの充実に向けて、新規開講科目を増やしている。2021 年度には「経済政策論 A/B」と「日本経済論 A/B」が開講される予定である。 |
| | 改善策 | 今後も継続して、メディアスクーリング科目を増やすことが学生のニーズを満たすうえで必要と考えられる。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 4 | 中期目標 | カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援 |
| | 年度目標 | 現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。 |
| | 達成指標 | 学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。 |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 |
| 自己評価 | | B |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | | | |
|----|-------|---|---|
| | | 理由 | コロナ禍の影響により、4月-6月や10月-12月の学習ガイダンスは中止となった。 |
| | | 改善策 | コロナ禍の影響もあり容易ではないが、カリキュラムを通じて積み上げ式の学習ができるように、今後も継続して学生への学習サポートが必要と考えられる |
| No | | 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |
| 5 | | 中期目標 | 継続的な学習推進。 |
| | | 年度目標 | ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後に引き続き実施し、通信教育課程での学びについて理解を深める。 |
| | | 達成指標 | ガイダンス実施報告。 |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | | 自己評価 | B |
| 理由 | | コロナ禍の影響により、ステップ式学習ガイダンスを春学期・秋学期ともに中止となった。 | |
| | 改善策 | カリキュラムツリーおよびマップの達成状況を学生自身が把握できるよう学習ガイダンスで指導案内を行う。 | |
| No | | 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |
| 6 | | 中期目標 | カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。 |
| | | 年度目標 | 現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。 |
| | | 達成指標 | 学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。 |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | | 自己評価 | B |
| 理由 | | コロナ禍の影響により、学習ガイダンス等が中止となり、学生に周知できなかった。 | |
| | 改善策 | 教員講演ガイダンスでカリキュラムツリー・マップについて言及し、学生が学習の目的や方向性を理解できるように努める。 | |
| No | | 評価基準 | 学生の受け入れ |
| 7 | | 中期目標 | アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。 |
| | | 年度目標 | アドミッションポリシーにある「社会に開かれた大学」を実践し、意欲ある様々な学生を受け入れる。 |
| | | 達成指標 | 通教主任と学務委員会委員による書類選考の実施と教授会への報告・承認。 |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | | 自己評価 | A |
| 理由 | | 通読判定での書類選考では、課題の書評、学生の経歴、成績を総合的に判断している。身体・精神障がい者も多く入学するため、該当者に対する事前相談・面談の流れも構築している。 | |
| | 改善策 | 身体・精神障がい者に対する事前相談・面談制度については具体事例を積み重ねることで改善を図る。 | |
| No | | 評価基準 | 教員・教員組織 |
| 8 | | 中期目標 | 学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。 |
| | | 年度目標 | 通信教育課程担当の通教主任1名と学務委員会委員を置き、通教授業編成委員会の設置・開催を含め、教授会執行部との連携をはかる。 |
| | | 達成指標 | 各種委員会体制（委員会名簿）。 |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | | 自己評価 | S |
| 理由 | | コロナ禍の影響があるにもかかわらず、通教授業編成委員会を活用しながら、通教主任1名と学務委員1名が連携することで通教学務を円滑に回すことができた。 | |
| | 改善策 | 通教主任と学務委員の2名の連携を強め、効率的かつきめ細かな対応を図る。 | |
| No | | 評価基準 | 教員・教員組織 |
| 9 | | 中期目標 | 通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。 |
| | | 年度目標 | 通学課程の専任教員を、通信教育課程の教科担当者に必ず配置する形で、教育の質を維持する。 |
| | | 達成指標 | 通信教育課程経済学科科目担当者表。 |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | | | |
|--|--|---|--|
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| | | 自己評価 | S |
| | | 理由 | 通信学習科目については専任教員が教科担当者となり、組織として通信教育課程の質を維持している。 |
| | | 改善策 | 通学課程と通信教育課程のカリキュラムを照らし合わせて教員組織の質を担保できるように努める。 |
| No | 評価基準 | 学生支援 | |
| 10 | 中期目標 | 夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。 | |
| | 年度目標 | スクーリング時に学生相談支援室・通教主任・通教部長と連携し、問題・相談に対応する。また、入学を希望している障がい等を持つ方に事前相談を実施し、本学通信教育課程でできる支援と配慮を相互確認して、ミスマッチを防ぐ。 | |
| | 達成指標 | 学生相談記録。 | |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| 自己評価 | | A | |
| 理由 | | 身体・精神障がい者や疾病を持った学生が多く在籍しているため、スクーリング時には学生相談・支援室（カウンセラー・精神科医含む）と通教主任、通教部長、教授会執行部と連携し、問題・相談に対応する体制が整えられている。 | |
| 改善策 | 障がい者に対する事前相談制度を維持し、問題点があれば適宜改善していく。 | | |
| No | 評価基準 | 社会連携・社会貢献 | |
| 11 | 中期目標 | 「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。 | |
| | 年度目標 | 通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、広く高等教育の門戸を開放していることを全国の進学検討者に知らせる。 | |
| | 達成指標 | 広報活動実施報告。 | |
| | 年度末報告 | 教授会執行部による点検・評価 | |
| 自己評価 | | S | |
| 理由 | | コロナ禍にもかかわらず、全国で行われる通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加した | |
| 改善策 | 合同入学説明会でのフィードバックをもとに社会人学生のニーズに対して通信教育課程としてどのようなサービスを提供できるのか検討を進める。 | | |
| <p>【重点目標】 カリキュラムツリー、カリキュラムマップの認知度の向上。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 カリキュラムツリーやマップに関する学習ガイダンス等での説明</p> <p>【年度目標達成状況総括】 コロナ禍のなか、通教学務全体としては従来の業務と変わらない水準を維持するのに多くの労力を必要とした一年であった。にもかかわらず、教育内容の改善を図る観点から、メディアスクーリング等が拡充できた点が評価できる。2021年度以降においては、担当教員の定年退職などで今後の授業編成が困難となることが予想されるとともに、コロナ問題の収束にはまだ時間がかかると思われるが、通教学務委員、授業編成委員および学部執行部が連携することで、引き続き、円滑な通教学務の運営を行っていききたい。</p> | | | |

【2020年度目標の達成状況に関する大学評価】

経済学部通信教育課程では、2020年度の達成状況をみると、教育・学習、教員組織、社会連携における成果が顕著であり評価できる。教育・学習面では、カリキュラムツリー・マップの作成・点検や、学生アンケートを反映したメディアスクーリング充実のための新規開講科目の増設がある。これらは、常に更新が求められる事項であるが、今後も学生のニーズをていねいに拾いつつ教育支援を充実していただきたい。教員組織では、通教授業編成委員会を活用した通教主任と学務委員による円滑な学務運営や、専任教員が教科担当者となるなど組織としての通信教育課程の質の維持があげられる。また社会連携においては、コロナ禍であっても通信教育協会主催の合同入学説明会に複数回参加し、多様な学生ニーズの把握と広報を行っており高く評価できる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

一方、コロナにより、学習ガイダンスやステップ式学習ガイダンスが中止となった点は残念であったが、工夫を重ねて学生への学習サポートを進めていただきたい。

IV 2021 年度中期目標・年度目標

| | | |
|----|------|---|
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 1 | 中期目標 | 生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実。 |
| | 年度目標 | 過年度の成績分布データや学生アンケートを元に学生のニーズをとらえ、世代に関わらないカリキュラムの充実を目指す。 |
| | 達成指標 | 学務委員会資料の教授会等へのフィードバック（通教主任による報告や教授会での承認等） |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】 |
| 2 | 中期目標 | カリキュラムツリー・カリキュラムマップの活用を通じたカリキュラムの点検と改善。 |
| | 年度目標 | カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを確認し、必要に応じて修正等を行う。 |
| | 達成指標 | 学部専任教員（特に通教担当教員）への説明とフィードバックを反映し、必要に応じて改善する |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 3 | 中期目標 | 検証に基づく更なるスクーリングの充実。 |
| | 年度目標 | 学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の充実を目指す。メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスも検証する。 |
| | 達成指標 | メディア授業とスクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置を行う。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】 |
| 4 | 中期目標 | カリキュラムツリーの活用を通じた学生の履修支援。 |
| | 年度目標 | 現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。 |
| | 達成指標 | 学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |
| 5 | 中期目標 | 継続的な学習推進。 |
| | 年度目標 | ステップアップ型学習ガイダンス（事務ガイダンス・卒業生講演及び相談・教員講演）を春と秋の入学後に引き続き実施し、通信教育課程での学びについて理解を深める。 |
| | 達成指標 | ガイダンス実施報告。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。 |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】 |
| 6 | 中期目標 | カリキュラムツリー・カリキュラムマップを通じた学修成果の測定への取り組み。 |
| | 年度目標 | 現状認知度が低いため、ガイダンス等を通じ、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーについて案内を行い、学生の目に触れる機会を増やす。 |
| | 達成指標 | 学習ガイダンスでのマップ、ツリーの案内。コロナの感染拡大で対面での案内が困難なケースが発生しても、一定の対応を行う準備をする。 |
| No | 評価基準 | 学生の受け入れ |
| 7 | 中期目標 | アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れと検証。 |
| | 年度目標 | アドミッションポリシーにある「社会に開かれた大学」を実践し、意欲ある様々な学生を受け入れる。 |
| | 達成指標 | 通教主任と学務委員会委員による書類選考の実施と教授会への報告・承認。 |
| No | 評価基準 | 教員・教員組織 |
| 8 | 中期目標 | 学部執行部に、通信教育課程を担当する通信教育課程主任を1名置き、他1名の学務委員とともに通教課程を担当する体制を維持する。 |
| | 年度目標 | 通信教育課程担当の通教主任1名と学務委員会委員を置き、通教授業編成委員会の設置・開催を含め、教授会執行部との連携をはかる。 |
| | 達成指標 | 各種委員会体制（委員会名簿）。 |
| No | 評価基準 | 教員・教員組織 |
| 9 | 中期目標 | 通信教育課程のカリキュラムにふさわしい教員組織の維持。 |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

| | | |
|---|------|---|
| | 年度目標 | 通学課程の専任教員を、通信教育課程の教科担当者に必ず配置する形で、教育の質を維持する。 |
| | 達成指標 | 通信教育課程経済学科科目担当者表。 |
| No | 評価基準 | 学生支援 |
| 10 | 中期目標 | 夏冬期スクーリング時に、学生相談支援室・通信教育課程主任・通信教育部長を中心に、教授会と連携をはかり、問題・相談に対応する。 |
| | 年度目標 | スクーリング時に学生相談支援室・通教主任・通教部長と連携し、問題・相談に対応する。また、入学を希望している障がい等を持つ方に事前相談を実施し、本学通信教育課程のできる支援と配慮を相互確認して、ミスマッチを防ぐ。 |
| | 達成指標 | 学生相談記録。 |
| No | 評価基準 | 社会連携・社会貢献 |
| 11 | 中期目標 | 「社会人の学び直し」の多様なニーズに応え、社会貢献としての意義を持つ通信教育課程を学部としてサステイナブルに維持して行く。 |
| | 年度目標 | 通信教育協会加盟大学と合同説明会に参加し、広く高等教育の門戸を開放していることを全国の進学検討者に知らせる。 |
| | 達成指標 | 広報活動実施報告。 |
| <p>【重点目標】</p> <p>カリキュラムツリーやマップの認知度向上等、コロナ禍の下でも従来の質を維持する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>カリキュラムツリーやマップに関する学習ガイダンス等での説明。</p> | | |

【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

経済学部通信教育課程では、2021 年度の年度目標のなかでも特に、現状での認知度が低いカリキュラムツリーとカリキュラムマップの認知度の向上について重きを置いている。これは 2020 年度のコロナ禍によって諸々の学習ガイダンスが実施できなかったことも影響しているのであろう。毎年、確認と必要に応じた修正を行っているカリキュラムツリーやカリキュラムマップを周知していくことは、学生の主体的な学びのためにも必要であり適切な目標と評価できる。

学習ガイダンスや、本通信教育課程の特徴であるステップ式学習ガイダンスにおいて周知していくとともに、対面のガイダンスが困難となった場合においても学生が学習の目的や方向性を理解できるように、教員講演ガイダンスをはじめとした工夫を行っていただきたい。そうした工夫の蓄積は、対面授業を常としない本課程において、ガイダンスだけではなく通常の学習支援においても応用し活用できるものと思われる。

【大学評価総評】

経済学部通信教育課程には多様な学生が学んでおり、それらのニーズに耳を傾け、教育に反映して質の高い教育を提供しており高く評価できる。対象とする学生は、社会人だけではなく身体障がい者、精神障がい者、精神疾患を抱える者など様々な配慮が必要な学生も多く、ニーズも多岐にわたっていると推察される。本教育課程では、学生相談室や学生支援室等との連携をはかりながら学生支援を行うと同時に、学生アンケートを用いて、例えばメディアスクーリングを拡充するなど、アンケート結果を単に教授会にフィードバックするだけではなく、具体的に活用し教育効果を高めている。さらに対面授業を常としない教育課程であるからこそ、丁寧な学習ガイダンスや多様な形態のスクーリングを展開している。

本教育課程の行っている教育方法は、コロナ禍において非対面授業を余儀なくされた他学部や他の教育課程にとっても学ぶべき教育方法が多く、今後のさらなる展開を期待したい。問題点として記載されている専任教員の不在問題については、いずれこの配置は必要になるとと思われるので検討が望まれる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。